

# 「地域の宝」マップ

～北上山地の大自然に抱かれて～

## 門馬区域について

門馬区域は、宮古市の最西端に位置し、西側から、区界、去石、田代、黒沢、松草、門馬、平津戸の各集落があり、東側は宮古市内の川内地域に接しています。また、門馬区域は北上山地の最高峰「早池峰山」の北面にあたり、盛岡との境に広がる区界高原とシンボリックな存在の「兜明神岳」を有します。その兜明神岳を源とする閉伊川、築川との分水嶺となる区界峠、宮古街道最大の難所といわれた大峠などがあります。北上山地特有の高山植物が自生しており、豊かな自然環境が残されています。

### 宮古市文化財保存活用地域計画とは

市内に点在する歴史や文化・風習を保護し後世へ残していくため、地域の方々や市内外のみならず文化財を活用し地域の魅力を深めていきたいと考えています。そのため、宮古市では地元で眠る「地域の宝」を、9つの区域ごとに「宝マップ」にまとめて後世に伝え残す活動をしています。

編集 宮古市文化課（令和8年2月17日発行）  
 〒027-0097 岩手県宮古市崎山1-16-1 TEL0193-65-7256  
 印刷・製本 川口印刷工業株式会社



地域計画の詳細はこちら

マップの詳細はこちら

※本マップの発行にあたり、令和7年度岩手県地域経営推進費補助金の助成を活用しました

## 門馬の人々

### 4 根本四郎(根本四郎氏顕彰碑)

根本四郎は、明治22(1889)年に茨城県で生まれ九州帝国大学を卒業後、岩手医学専門学校に赴任し、後に岩手医科大学小児科の初代教授となりました。無医村で医師の診察を受けるのが困難な地域へ出張診療を行い、門馬・川内に診療所を開設するなど、岩手のへき地医療に30年以上携わりました。岩手のへき地で病気に苦しむ子供たちの救済に尽力した根本氏の功績を称え、道の駅区界の西側に顕彰碑が建てられています。



根本四郎氏

### 40 大峠養蜂場

平津戸にある養蜂場でトチノキ、シナノキなどの蜂蜜を販売しています。大峠養蜂場のある平津戸は、蜜源となるトチノキが豊富であったため、初代の大峠長一さんは、急峻な山がせまる厳しい地形を逆手にとり、標高差により開花時期が異なることを利用して、この土地ならではの採蜜を行ってきました。店舗を構えて60年が過ぎ、トチの苗を植える活動もしています。トチが芽生えてから採蜜が可能になるのは30年後。豊かな森を未来に残し、この地で生きる人たちにその自然を活かしてほしいとの願いで現在も蜂蜜を作り続けています。



蜂蜜の製品

### 23 田代念佛剣舞(念佛剣舞供養碑)

明治初期に旧川井村田代の去石仙仁門が仙台の酒屋に出稼ぎに行った時に踊りを習得し、巻物を伝授されました。毎年お盆に「南無阿彌陀仏」と刻した石碑の前で供養し、次いで庭元の墓で踊り、その後、初盆などの家々を回向して踊り、最後に巻物開きを行う、という昔からの一連の儀式を継承しています。2020年に岩手県指定無形民俗文化財に指定されています。



## 区界高原と兜明神岳

### 9 区界高原

昭和22年に31戸の開拓団によって農地が開かれました。国道106号やJR山田線の駅も近いため、かつては兜明神岳山ろくのスキー場やスケート場がにぎわい、ダイコンなどの高原野菜の無人販売所も多く立ち並びました。



区界高原

### 8 兜明神岳

区界高原のシンボルともいえる山で、標高は1,005m。山頂の岩場は早池峰山と同じ蛇紋岩からなり、その形が兜に似ているのが名前の由来です。地元では「かぶとさん」と呼ばれ、親しまれています。山頂の岩場の北側には「安倍穴」と呼ばれる責任伝説の岩穴もあります。



兜明神岳の山頂付近の岩場

### 10 兜神社

宮古市内にある「閉伊七社」のひとつで、兜明神岳の南側のふもとにあり、鎌倉時代の閉伊氏の家臣・近能佐七郎親良を祀っています。かつては馬主が馬を連れて参拝に訪れ、牛馬の守護神として広く信仰を集めました。



兜神社

## JR 山田線と宮古街道

### 51 JR 山田線

JR 山田線は盛岡と宮古を結ぶJR 東日本の路線です。当初は山田町を目指したことからその名がついています。北上山地の河谷を縫って走る山田線は、大正12年から順次開業し、昭和3年に区界駅、昭和9年には宮古駅、翌年に山田駅が開業し、全線開通となりました。しかし、昭和22年のカザリン台風、翌年のアイオン台風による土砂災害で不通となりました。6年後の昭和29年に復旧工事が完了し、運転再開となりました。門馬区域の山間部に点在する集落を結ぶ山田線の駅は廃止となった平津戸駅を含めると、区界駅、松草駅の3駅です。区界駅は標高774mで東北一標高が高い駅です。映画「大いなる旅路」(昭和35年)は、昭和19年に平津戸駅一川内駅の間で起きた雪崩による列車転覆事故がモデルとなり、現地及び宮古駅前に慰霊碑が建立されています。

蒸気機関車のラスト写真 提供：工藤美砂子氏

### 50 宮古街道

宮古街道(閉伊街道)は、盛岡城下と藩の主要港である宮古港を結ぶ街道として、江戸時代に整備が始まりました。北上山地の河谷を行く宮古街道は、道幅のせまい曲がりくねった山道や川沿いのけげ道も多く、盛岡藩内でも屈指の難所続きの道でした。現在の国道106号は宮古街道をもとに整備されたもので、かつては盛岡一宮古間で約110km、徒歩で2泊3日でした。街道沿いには宿があり、旅人、馬方などが滞在することで人や文化の交流の場となりました。また街道沿いに暮らす人々にとっては、生活物資を手に入れ、集落と集落をつなぐ道でもありました。

旧街道の調査を行っている方のHPです。浜街道のリンクから各街道の記録も見られます。



宮古街道

浜街道



閉伊川街道の図(宮古市蔵)

## 早池峰山(北面)

### 37 早池峰山

標高1,917m。北上山地の最高峰であり山岳信仰の霊山であるとともに、古くから水の神、山の神として農業や漁業に携わる人々から信仰を集めてきました。現在は「日本百名山」にも数えられ、貴重な高山植物の宝庫として登山愛好家が訪れています。現在の早池峰神社付近にある鳥居が、かつての早池峰山北側の旧登山道入り口でした。

### 31 早池峰神社

早池峰山への登拝路は四方にあり、東西南北それぞれの登山口に山伏がいて登拝者の先達をつとめていました。北側を守る「門馬別当」は早池峰山の御山守を兼ね、江戸時代に「早池峰のひのき」と呼ばれ、ヒバの生産管理を任されていました。かつての門馬別当家の敷地に現在の早池峰神社があります。



早池峰神社

### 33 早池峰山5合目の鳥居

登山の目的が信仰のためであった昭和の初めころまでは、この場所で心身を清め、新しい「わらじ」に履き替えて山頂を目指しました。5合目にある石の鳥居は昭和12年に山田町登山会が寄進したもの。資材運搬は地元民が請け負い、「土ざり」を使って現地まであげたそうです。5合目前後は比較的ゆるやかな河原が続き、「七里河原」と呼ばれ、魚止めの滝があります。



早池峰山北側5合目の鳥居

## かわい木の博物館と希少植物

### 区界周辺の植物

区界高原の周辺では様々な希少種や固有種が観察できます。※ほぼ全域が保全区域ないし個人所有地のため、動植物の採取はできません。



5月ごろ開花

### 12 クザカイトンポポ

岩手県や青森県に分布し、区界高原のような明るい草原や林の半日陰を好みます。岩手県はもとより環境省のレッドリストにも掲載されている希少種です。



5月ごろ開花

### 14 八重咲きのオオヤマザクラ

ヤマザクラより濃い紅色で、花も大きく、山里に春を告げる花です。中でも八重咲きのオオヤマザクラは美しく、濃いピンクが美しさを際立たせます。



6月ごろ開花

### 24 ハニヒョウタンボクの群落

氷河期から生き残っている植物で、岩手県と長野県でのみ生息が確認されています。門馬区域では6月上旬に開花、10月に赤い2つの実をつけます。

### かわい木の博物館

川井地域の豊かな自然と人々の生活や文化を結びつけ、自然をまるごと博物館とらえて活動しています。全17ある分館のうち、門馬区域内には「不伐の森」、「水源の森」、「古代の森」、「景観の森」、「蜜源の森」、「キノコの森」、「ハニヒョウタンボクの群落」、「深間水辺の森」、「育成の森」の9つがあります。入館には事前の申し込みと案内人の同行が必要です。

お問い合わせ 宮古市川井総合事務所 (0193-76-2111)

### 36 早池峰山のアカエゾマツ 自生南限地(国指定天然記念物)

アカエゾマツは、主に北海道の湿原、岩石地などに群生して分布しています。本州では早池峰山北面のアイオン沢付近でのみ自生が確認され、早池峰山が本種の生息地の南限となっています。※かわい木の博物館分館6号「古代の森」から対岸のアカエゾマツの群生地を観察できます。※入館・入場には事前の申し込みが必要です。

## 閉伊川の源流と災害

### 47 閉伊川

兜明神岳の山麓に水源をもち、早池峰山麓から流れ出る御山川など大小の支流をあわせて東に向かって流れます。山間部を蛇行しながら宮古湾にそそぐ2級河川であり、溪流釣り的人气スポットでもあります。腹部、鈴久名、川内の3つの水力発電所が稼働しています。



閉伊川(黒沢付近)

### 2 区界峠

標高751m。東西方向に流れる閉伊川と築川の分水嶺にあたります。かつては宮古街道の交通の難所でしたが、昭和50年にトンネル化されました。現在は「区界道路」として整備され、県内最長となる「新区界トンネル」が令和2年に開通しています。



区界峠から早池峰山を望む

### 38 アイオン台風復旧記念碑

昭和23年9月に発生したアイオン台風は、前年のカザリン台風が続いて各地に大きな被害を与えました。アイオン台風の影響で、早池峰山の山麓では400ミリ近い豪雨となり、大洪水が発生しました。これによって早池峰山北面では山崩れが起こり、出現したのがアイオン沢です。さらに土石流が起こり、大量の土砂が閉伊川の河谷を埋め、押し出された大量の流木が御山川口や閉伊川の鉄橋につかえ、流れをせき止めました。せき止められた流れはさらに水量を増幅させ、橋脚を押し倒して一気に流れだし、流域の集落をはじめ、道路や線路に壊滅的な被害を与えました。山田線の復旧は台風から6年後の昭和29年のことでした。また、アイオン台風で不通となった府県道盛岡宮古緑線の復旧工事後には完成記念碑が建立されています。

## 自然と産業

### 「門馬区域の自然」

北上山地の地形は山頂付近が比較的なだらかな「隆起準平原」が特徴です。雨風による侵食を受けて平坦化する過程で、周囲より侵食に強いため小高い山として残った部分を残丘(モナドック)といい、兜明神岳がその例です。また、氷河期には北上山地の広範囲に高山帯がひろがっていたとされ、門馬区域にみられるハニヒョウタンボクやアカエゾマツ(自生南限地)は氷河期の残存植物とされています。標高700mほどに広がる区界高原では、その特徴ある周氷河地形を兜神社周辺で観察することができます。区界高原の広大な畑では、寒暖差を利用したダイコンなど高原野菜の栽培が盛んに行われてきました。

### 52 川井赤しそ

区界高原の広大な畑で栽培される、葉の表が緑色で裏が赤色という全国的にも珍しい特徴を持つ在来種。国が地域ブランドとして保護しています。葉に厚みがあるため香りも発色も強く、「紀州南高梅」の原料に用いられています。ほどよい酸味のしそジュースは昔から家庭の味として作られていて、商品化された「川井ベリーラ」は地域の特産品となっています。



川井ベリーラ

### 19 田代そば

旧川井村の田代と小国は標高が高い位置にあり、寒暖差が大きい昔からそばの名産地として知られていました。現在は「門馬地区そば切り伝承の会」がそば生産やそば打ち体験などを行って、ふるさとの大切な食文化を伝承しています。



そば切りの様子

お問い合わせ 門馬地域自治振興協議会・門馬地域そば切り伝承の会